



やるき
ほんまきまき
木佐木

神奈川県議会議員

日本共産党

2024.2.14

木佐木ただまさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984年山口県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

高次脳機能障害を知っていますか？

当事者や家族の支援施設を視察

2月7日、厚木市愛甲で NPO 法人高次脳機能障害友の会ナナが運営する就労継続支援 B 型事業所のスペースナナを県議団と高津区で県議選を闘った野末明美さんと視察に行ってきました。

県議になり高次脳機能障害への社会的な理解の普及啓発について要望を受けたのですが、そもそもこの障害について、私自身がほとんど知らなかったため当事者や支援者、家族の悩みや要望を知りたいと思ったのがきっかけでした。

高次脳機能障害とは、交通事故や病気などをきっかけとして脳の機能が著しく障害を受けることにより、記憶障害や集中力の低下、遂行機能障害など、さまざまな症状を引き起こしている状態です。生活をするうえで欠かせない能力が障害を受けることから、日常生活に多大な障壁を与えることがあります。(神奈川県 HP より引用)



スペースナナの運営するカフェの前で

症状についても左段の表のように、人によってまちまちであり適切な支援や周囲の理解がなければ社会復帰もなかなか難しいのが実情とのことでした。

スペースナナでは、継続的にかかわることで困難への対応力の向上にとどまらず、機能の回復とも言えるような改善を目の当たりにすることもあると語られていました。

公に何が求められるか

県の拠点医療機関である神奈川リハビリテーション病院では、地域で生活する退院後のことを視野に入れたサポートが、当事者や家族の方から信頼を得ているそうです。お邪魔したスペースナナでも、リハビリテーション病院から「行ってみてはどうか」と紹介されたことが、施設を利用するきっかけになった人が多くいらっしゃいました。拠点の医療機関が高次脳機能障害の対応の知見を深め、患者・家族との信頼、地域の支援施設と連携を深めたり、家族会の立ち上げの支援を行うコーディネータの増員の予算措置などが早期に地域支援に結び付くために必要だと感じました。

// 怪我や病気以前と比べて、こんな症状はありませんか？

- ミスが多くなったり、新しく覚えることが、うまく出来なくなった。(記憶障害)
- 気持ちを抑えることが、うまく出来なくなった。(感情コントロール困難)
- 自分で出来ることを人に頼ったり、子どもっぽくなった。(退行や依存)
- 目的を持ってものごとを遂行することが出来なくなった。(遂行機能障害)
- 言葉がうまく出てこなかったり、うまく発音できなくなった(発語障害)
- 障害による変化を自覚できない。(障害の認識)
- 何事に対しても無気力になった。(自発性の低下)
- 気が散って集中できなくなった。(注意障害)
- 相手の気持ちを察することが、うまく出来なくなった。(対人関係)
- こだわりが強く、気持ちが切替えられなくなった。
- ・・・など

症状の例 (神奈川県 HP)

